（様式第1号）

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4170500039		
法人名	社会福祉法人　伊万里敬愛会		
事業所名	社会福祉法人　伊万里敬愛会　　グループホーム椎の木の家		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町小黒川145番地1		
自己評価作成日	令和1年10月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和1年12月2日	外部評価確定日	令和2年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①3地区の区長、民生委員、地区役員の方に運営推進会議のメンバーに入って頂いているので、事業所として色々な情報が得られる。また、地域の方が事業所の内容や認知症に対する理解があり、協力が得やすい。②地域の行事の事前準備などに参加する事で、地域の方との交流もあり行事に参加しやすい。また、気軽に声をかけてくださり、地域の方と利用者様が一緒に楽しむ事が出来ている。③川の拡張工事で、近隣の立ち退きがあり民家は少なくはなっているが、風情は残っている。また、古い民家改修型で、立地場所としても目の前に湖上公園があり四季折々の花が楽しめている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）

「グループホーム椎の木の家」は平成10年1月、民家改修型の事業所として椎の木地区で6名からスタートし、平成15年4月現在の場所に移り定員9名で開所されている。以前の思いの詰まった「椎の木の家」としての理念である「認知症があっても一人一人が当たり前に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」をモットーに支援している。管理者は法人内の異動により3年ほど前からグループホーム担当となり、まだまだ経験不足と言うが色々な職種を経験しており、全職員での連携や協働する事でより良い生活を送る援助が出来、職員のスキルアップにもつながっている。事業所の母体である病院が徒歩数分の場所にあり、利用者、家族、職員の安心に繋がり医療連携が図りやすい施設である。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄）	外部評価（評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	椎の木の家の理念「認知症があっても一人一人が地域の中で当たり前に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」を念頭に、業務の中に取り入れて実践している。また、職員が見やすい所に貼り、常に意識し心掛けている。	開設時に作られた理念は一貫しており、現在も変更されていない。「認知症があっても一人一人が地域の中で当たり前に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」の理念は利用者にとって一番大切な内容になっている。理念は施設内に掲示してあり朝礼時に職員で唱和する事で常に意識しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事（祇園祭・おくんち）などに参加し、事前準備にも参加している。今までは、椎の木の家の夏祭りがあったが、敬愛園と合同になり椎の木の家独自の夏祭りがない為、地域の行事参加を大切にしている。	地区に入会し区費も収めている。地区の便りの配布や地区役員からの祭り、清掃作業の案内があり職員が交替で参加している。最近では地区の祭りの準備から参加し、当日はお神輿が施設前で止まり利用者、職員は神輿の下をくぐってお参りをし喜ばれた。利用者と地域のつながりが継続出来る様支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員会の新年の挨拶には、必ず参加して情報を共有している。また、地域でおこなわれているサロンにも参加するように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の行事報告や利用者様の近況等を報告し、いろんな意見を頂いてサービスの向上に活かしている。また、区長や民生委員の参加がある為、地域の情報も聞く事が出来ている。	市担当者、地区代表、民生委員等の参加により2か月に1回開催している。施設からの報告だけではなく地域の情報等双方の情報交換の場になっている。家族の代表が運営推進会議に出席する事はないが家族会があり家族の意見は把握出来ており支援に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄）	外部評価（評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上司が、市役所などの関係機関と関わりを多く持っている。運営推進会議にも参加して頂いているので情報交換を行なっている。	運営推進会議のメンバーであり普段から顔見知りの関係である。最近では介護支援専門員の配置について相談した際、丁寧なアドバイスをもらった。何でも気軽に相談出来る関係性が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会に参加し、身体拘束について理解を深めている。玄関の施錠については、川の拡張工事もあり、必要に応じて施錠している事もある。家族へは、説明し理解して頂いている。	研修会に参加した職員が勉強会で発表を行い、日頃から身体拘束についての内容や弊害を把握している。勉強会に参加出来なかった職員は資料確認後、レポートを提出する事で全職員に周知出来ている。現在川の拡張工事が行われている為必要に応じて玄関の施錠を行っているが、日頃から身体拘束をしないケアに気を付けている。言葉使いが不適切な場合はその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、ニュースなどで他の施設の情報が流れた時など、椎の木会議で取り上げ話合って学ぶようにしている。また、虐待についての勉強会にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者がいない。研修内外で、学ぶ機会があれば、参加し学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	上司・管理者・担当・家族・利用者様と十分に話し合う機会を設けたり、事前に見学へ来て頂いている。また、利用者様へ面会へ行ったりして情報を得ている。必要に応じて、医師から説明をして頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄）	外部評価（評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、利用者様・家族とも一緒に話す機会がある為、行事の参加や意見・要望など聞く機会を作っている。また、職員へ情報共有し、話し合ってサービスの向上に努めている。	家族の面会が多く、面会時には近況報告等行い何気ない会話から家族の思いを汲み取る様心掛けている。連絡が必要な場合は電話やメールで報告を行っており、家族との信頼関係は出来ている。意見箱の設置はしていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議の時に、職員の意見（月行事・利用者の担当）を聞き、日常業務にも取り組んでいる。必要に応じて、話合う機会を設けている。	月1回施設長、事務長、管理者参加にてグループホーム会議を実施している。管理者は日頃からコミュニケーションを大切にしており職員が意見を言いやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤から常勤への登用や研修への参加など、平等に行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、出来る限り参加させキャリアカードを作成し活用している。知識や技術を深めてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加や伊万里市のコミュニティ会議などに参加し、意見交換の機会を作れるように図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄） 実施状況	外部評価（評価機関記入欄） 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と担当者と話し合う機会を作る事で、利用者様の意見を聞き取り、安心してサービスを受けて頂けるように心がけている。体験入所された方は、いなかったが、入所されて寄り添う事で信頼関係を築き、安心して生活して頂くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、家族から利用者様の情報収集を行い、見学してもらい事業について説明を行なっている。不安な事や要望なども聞き取るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族の要望を聞き、ケアマネジャー・担当とも話し合い、必要とされている支援を把握し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ない事を見極めて、お互い協力する事を心掛けて、日常生活を送って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡で行事への参加を促し、交流できる場を設けている。必要に応じて家族へ協力もお願いしている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄） 実施状況	外部評価（評価機関記入欄） 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事へ参加する事を大切にし、馴染みのある方との交流を持つことが出来るように努めている。地域の方のボランティアの活動もあり、自由に来ていただけるように心掛けている。	利用者は地域の方が多く、道を挟んだ向かいの商店が行きつけだった方も多い為職員付き添いで買い物に行っている。商店主や買い物客との交流があり馴染みの関係が途切れない様支援している。地域行事への参加は家族やボランティアの協力もあり全員で参加出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	業務に追われ、レクリエーションを取り入れる機会が少なくなっているのが現状なので、食事の時間を大切にし常に会話が出来るように心掛けている。また、朝の体操時にみんなが参加できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や施設への長期入所は、職員が面会に行くように心掛けている。また、家族の方とも交流もあり色々な情報を得ている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様・家族・担当者・ケアマネジャーと話合いを持ち、本人にあった介護計画書を作成している。評価も行っている。また、日常生活の中での会話を大切にし会話をする事で、思いや要望などを聞き取るように務めている。	入浴中や食事中等ゆっくりとした日常生活の中でコミュニケーションを図りながら一人一人の思いを引き出す様寄り添い支援している。利用者には担当者が決められ、日頃から個人個人の思いを把握する様務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族へ聞き取り情報を得ている。また、利用者様との会話の中でも生活歴が見えてくるので、情報収集に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活記録（ちょうじゅ）を行ない、朝礼時に申し送りをする事で、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に、近況を伝えるようにしている。その中で、家族と本人様との会話を聞き取り、必要に応じてケアについて話し合いを持っている。また、ケアプラン短期目標を3ヶ月・長期目標を6ヶ月とし、ケアプランを見直している。担当者会議では、本人・家族・ケアマネジャー・担当で話合い、出来ることは実現できるようにしている。	担当職員は日常生活の中で本人の思いや状態の把握を行い、日頃の家族との会話の中からケアプランに対する意向を確認している。介護支援専門員は担当者の原案を基にケアプランを作成し担当者会議を行っている。毎月のモニタリングと短期目標期間3か月毎に「ケアプラン内容実施状況」の確認は介護支援専門員の役割である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録（ちょうじゅ）へ日々の記録をしている。情報を共有することで、介護計画書・ケアに繋げて、評価・見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事への参加など家族を交えながら、職員の勤務時間を調整し、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でおこなわれる行事は、地域の方へ協力をお願いし安全に楽しむ事が出来ている。また、運営推進会議を利用し、災害時の対応について話し合いを持ち協力して頂くようにお願いしている		

自己	外部	項　目	自己評価 （事業所記入欄） 実施状況	外部評価 （評価機関記入欄） 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連絡し、必要に応じて適切な医療を受けられるように、指示をもらっている。	入居契約時、緊急時対応の関係から主治医変更についての説明を行っている。母体の病院は徒歩数分の場所にあり、定期受診は職員が付添い、その日のうちに家族へ結果報告を行っている。他科受診は家族付き添いを基本としているが都合が悪い場合は職員が付き添いを行っている。母体の病院から週1回訪問看護による健康管理、緊急時の対応、又状態低下に伴う系列特養との連携があり利用者家族にとって安心出来る支援体制である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や判断を聞きたい時は、協力病院へ相談している。また、週1回医療連携を活用し、担当の看護士へ相談やアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、面会や協力病院と連絡を取り合い情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院の主治医と連携を図り、主治医・家族・担当と話合い方針を共有している。、	重度化した場合の対応について入居時に家族と十分な話し合いを行っている。母体の病院、特養との連携でグループホームでの看取りを希望される家族は少なく今まで1回施設で看取りを行った事がある。医療必要時母体の病院への入院、身体機能低下の場合系列特養と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部・内部研修にて、緊急時の対応について学習している。また、地域の消防の派遣をお願いし、緊急時の対応についてもアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄）	外部評価（評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防避難訓練・災害時の避難訓練を行なっている。地元の消防署より来て頂き、通報訓練・避難誘導・消化器の使用・非常ベル・火災通報装置など説明を受けている。地域の方へ声かけし見守りをお願いしている。	地元消防署、地域、職員参加により年3回日中に消防訓練、避難訓練を実施している。他にも災害対策として、法人内の協議のもと、夜間帯の職員配置を2名に強化することで対策を行っている。最近の大雨災害時には施設前の道路が狭くすぐ傍が海の為、早目に系列特養へ避難した。非常食、水、毛布等は特養で備蓄を行っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基に対応している。言葉掛けは、利用者様ばかりだけではなく、職員間も気をつけている。	法人全体で「マナーアップ運動」の取り組みを行っている。利用者はもとより、職員間でも「ちゃん」付けをしない等特に言葉使いに気を付けている。月1回主任以上参加の法人全体会議で各部署の状況報告を行い、言葉使いや個人個人のプライバシーの保護、尊厳の保持に気を付けている。「法人たより」を発行する際使用する写真については入居時家族より了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様へ希望を聞き取りが出来るような言葉かけを行ない、支援するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様へ寄り添い、会話をしながら、一人一人のペースに合わせて、支援を行なうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容している。また、衣類を選ぶことが出来る方については、選んで頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄）	外部評価（評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来られる方は、声掛けし一緒に準備や片付けをしている。献立については、利用者様へ聞きながら決めている。	毎日のメニューは決まっておらず、職員が冷蔵庫の中の食材を見て作っている。利用者が食べたいメニューを伝え、一緒に調理をしたりおやつを作る事もある。調理した内容は1週間分記録し特養管理栄養士が確認を行っている。不足している栄養素がないか等のアドバイスがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態については、利用者様一人一人に合わせ作っている。水分補給は、食事以外にも、間食で2回水分補給するようにしている。それ以外でも、状況に合わせ努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、毎回口腔ケアを行なっている。洗面所へ行ける方は、誘導し歯磨きをして頂いている。就寝前には、洗浄剤へ浸けて、起床時に渡している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	「トイレへいきませんか？」と意思確認を行います。必要であれば必ずトイレ誘導し、排泄を促している。排泄内容・時間を記録している。	排泄チェック表により排尿間隔の把握を行いトイレでの排泄を基本としている。トイレ介助を行う事で4名の利用者が布パンツ使用となり排泄の自立につながっている。本人の自立支援はもとより家族の経済的負担の軽減になっている。手指洗浄後には小さめの手拭用ハンドタオルが準備してあり（1回使用後は洗濯）水分の拭き取り易さを考え支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が多い野菜を多く使用し、調理するように努めている。また、排便チェックシートを確認し必要に応じて対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄）	外部評価（評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の入浴は、1日おきで対応しているが、必要に応じて支援している。	毎日入浴準備を行っている為、声かけを行いながら週3回入浴を支援している。入浴予定表は作成しているが、時には入浴を嫌がられる事もある為無理強いはせず翌日に入浴してもらう等本人の気持ちに沿って支援している。浴槽にはリフトが設置してあり立位困難な利用者も浴槽に浸かってゆっくり入浴する事が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に部屋で休んで頂いたり、就寝時もバラバラで、利用者様の状況で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に、内服薬の内容記録を管理し、内容が確認できるようにしている。また、薬局へ薬を取りに行った場合は、症状など聞かれる場合もある為、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、簡単な掃除・食事の準備など、出来る方には、お願いしている。その人に合った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事やホームでの行事（敬老祝賀会・合同夏祭り）では、家族の協力もあり、出かけるようにしている。近所の方へ声かけし、出かけるようにしている。	近所で地区のふるさと祭りが開催され、家族の協力を得ながら全員で参加する事が出来た。今年は特養の夏祭りが荒天の為中止になったが、例年合同の夏祭りには家族や地域の参加者も多く顔見知りの方との交流も出来ている。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入欄）	外部評価（評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金を所有されている方はいないが、外出した時は、希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話される方はいないが、家族からかかってきた場合は、対応している。また、荷物・手紙が届いた時は、内容を伝え電話でお礼を言えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型で、浴室・洗面所・炊事場など、それぞれの空間があり、危険な所は黄色いテープなどを貼り事故防止に努めている。また、各部屋には、家族の写真や家屋が持ち込まれた物を置いている。	民家改修型施設の為ホールは家庭的な空間である。ソファーに座りTVを見たり会話を楽しんだり気ままに過ごす事が出来る。疲れた際はベッド臥床が出来る様ベッドの準備がしてある。ホールから調理をしている職員の姿が見え、時には一緒に調理を行っている。現在川の拡張工事があっており、しばらくは大きな音が聞こえたり施設が揺れたりと不安な状況もあったが声かけを行い穏やかに安心して過ごされる様支援している。トイレや浴室も掃除が行き届き嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過したり、部屋で休まれたり一人一人の状況に合わせて過ごして頂いている。また、気の合った方が隣に座って頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に部屋を案内し、本人様・家族とも話し合い部屋を決めて頂いている。必要に応じて、部屋替えも行っている。また、家族の写真や絵などを飾り居心地よく過されるように工夫している。	民家改修型施設の為各居室は自宅の様な雰囲気である。ベッド、布団は施設が準備しているが枕、シーツ、毛布等個人個人で持参しており利用者は自室と理解している。居室には家族の写真や絵が飾ってあり清掃が行き届いている。担当職員は衣替え等の際必要な品物、破棄に相当するもの等随時家族へ連絡をしている。家族より予算を預かり敬老会や、クリスマス会では本人に必要な物品をプレゼントに充てている。	

自己	外部	項　目	自己評価 （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には、手すりを設置している。また、出来る限り、段差も解消している。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（目標指標項目）アウトカム項目））（事業所記入） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項　目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項　目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない